

## トピック①

### 群馬県高校生会議 (GHSC)

～学校ではできない体験を提供するために～

代表 小高 広大

7月10日の参議院議員通常選挙から選挙権年齢が満18歳以上へと引き下げられ、高校生でも投票を行うことができるようになりました。しかし、教育機関では、政治的中立などの諸問題により、充実した主権者教育が行うことが難しいのが現状です。そこで、私たちが開催したのが、「高校生×選挙～18歳から考える 僕らの未来～」です。選挙権年齢引き下げに伴い、私たち高校生は“政治”というものを理解し、考えなければいけません。しかし、政治とは身近な課題に目を向け、考えることなのではないか。イベントでは、実際に群馬の身近な課題点を6つ挙げ、参加高校生同士の議論の元、架空の候補者を立て、模擬投票を行いました。

私たち群馬県高校生会議は「ふるさと群馬を、群馬に暮らす高校生を活性化する」を活動目標に掲げ活動する地域団体です。活動メンバーは全員現役高校生で構成されています。

群馬県高校生会議は2013年6月に県内有志高校生4人によって設立されました。発足のきっかけは、ある一人の高校生が東京で行われた高校生向けのディスカッションイベントに参加した時に「群馬県の高校生には、学校の枠を超え交流や自らの意見を発信する機会がなく『様々な物事に対するの当事者意識』『視野の広さ』『発信力・表現力』に大きな差が生まれているのではないかと気づいたことでした。ならば我々でその機会を創り出そうと、この思いに共感した高校生4人によって、「主体的な高校生を生み出す」「発信力のある高校生を生み出す」「視野の広い高校生を生み出す」の“3本柱”を理念に掲げ、高校生によるディスカッションイベント「群馬県高校生会議」の運営団体として発足しました。

ですが、活動を進めていくにつれ、この“3本柱”だけでなく「ふるさと群馬に暮らす若者とし



てこの地域の現状をよりよくしたい」という思いが強くなり、発足3年目を迎えた2015年4月に団体理念を見直し「高校生の力による地域(群馬)活性化」を新たに掲げることになりました。

昨今、グローバル化が叫ばれている中で、若者の地元離れや地元への無関心さもあらわになってきています。そのような中、私たちは、我々の年代が自ら「地域」について考える機会・様々な方策でこれに関わっていく機会を創出することで、高校生だけでなく周りの「大人」をも巻き込みながら、高校生を含む「若者」がより一層「群馬」に関わっていけるような未来を作りたいと考えています。

理念を再設定した昨年度は、これまで開催してきたディスカッションイベントだけにとらわれず、街中の活性化を目的に、前橋市にあるQのひろばにて地域参画イベント「ハイスクールバンドフェス in MAEBASHI」や、地元企業との共催イベントとして小中学生や高校生がアプリ開発をする「アイディアソンハッカソン」を開催しました。そして昨年12月には、地域課題と選挙を考えるイベント「高校生×選挙～18歳から考える 僕らの未来～」を開催しました。

今年4月には新たなメンバーを迎え、現在は21人の高校生で活動しています。学校も学年も性別も違う高校生が集まり、地域の大人の方々にもご支援いただきながら精力的に活動を行っています。

今年度は、地域参画型イベントとして7月18日には2回目となる「ハイスクールバンドフェス in MAEBASHI～群馬の逆襲～」を開催しました。また、8月8日には群馬県議会と共催で高校生と県議会議員とが群馬の課題点について議論する「高校生×県議会議員～私たちの手でひらく群馬の未来～」の開催も決定しています。ふるさと群馬を活性化するために私たちの活動はこれからも続いていきます。